



福留淳一 歯科医師 福留歯科医院インプラントセンター(東京都 羽村市)

### 症例1 シンコーン システムによる即時負荷

#### 【症例概要】

60歳、女性。高度歯周病による上顎前歯部ブリッジの動揺を主訴に来院。ブリッジの支台歯の抜歯に同意されたが、即日に今までと同等以上の安定感のある補綴物を希望されたため、シンコーンシステムによる即日負荷を選択した。

CT、レントゲン、スタディーモデルにより、技工士と協議しインプラントの埋入位置、方向、深度、補綴パーツのクリアランスを診査した。その結果、15番、13番、11番、23番、25番の欠損に対し、それぞれアンキロスB14、A11、A14、A14、A14を用い、シンコーンアバットメント(アンキロスSCアバットメント)は15番、13番に角度付、他にストレートを使用することとした。またその為のサージカルステントおよび暫間補綴物を作製した。

抜歯を行い計画どおりに選択したインプラントを、サージカルステントを用いて埋入した。ついでシンコーンアバットメントとシンコーンキャップを用いて暫間補綴物を装着した。この暫間補綴物は、インプラントの相互安定および手術後のヒーリングステントとして、1週間連続装着した。

術後3ヶ月間の治癒を待ち最終補綴物を作製し、装着した。

#### 【考察】

骨量の乏しい症例において、相対的に小さな体積で高強度のインプラントフィクスチャーを有し、マイクロムーブメント、マイクロギャップの問題を解決したアンキロスシステムによるインプラント支持型可撤性修復は、長期間の予知性を持つと思

われる。特に本症例に用いたシンコーンシステムは以下の点で非常に優れていると考えられる。

#### ■技工サイドからの優位性

- ・咬合面に補綴エレメントが露出しないので、補綴物が審美的に仕上げられる。
- ・アバットメントおよびシンコーンキャップの補綴エレメントがコンパクトなので、設計に自由度がある。
- ・フィクスチャーの埋入方向、位置についても後から補綴サイドで対応しやすい。
- ・臼歯部にもフィクスチャーの埋入するケースが多いので、咬合負荷に対する長期安定性が期待できる。

#### ■歯科医師サイドからの優位性

- ・アバットメントやシンコーンキャップの補綴エレメントが咬合面等に露出しないので、非常に衛生的である。
- ・アバットメント締め付けトルクが15Ncmと小さいので、即時負荷補綴に対して有利である。

シンコーンシステムは、構成パーツ、方法論、術式がシンプルで予知性が高い優れた治療法と言える。しかし、この効果を十分に発揮するためにはスタディーモデル、レントゲン、CT等の資料を基に術者と技工士が事前に十二分に検討しておくことが肝要と思われる。その結果、この治療を受けた患者には大きな満足がまっていると考えられる。

[技工担当 東京都福生市 宮川技工所]



写真1 術前のパノラマX線画像。高度歯周病により上顎前歯部の骨吸収が著しい。



写真2 サージカルステントを用いて適正な位置に埋入し、シンコーンアバットメント装着角度を検討する。



写真3 シンコーンキャップを取り込んだ暫間義歯。安定のため義歯はクラスプを付与する。



写真4 ヒーリングおよびインプラント安定のため、暫間義歯を術後1週間連続装着した。



写真5 3ヶ月の治癒期間の後、暫間義歯(上)から最終義歯(下)へ移行。



写真6 チェアサイドにてシンコーンキャップを最終補綴物へ取り込む。



写真7 最終義歯装着時の口腔内所見。



写真8 機能的・審美的ともに患者の満足が得られた。